

計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠の利用方法

基本的には共同利用での使い方に準じています。

計算科学研究センターの[利用の手引き](#)をご覧ください。ただし、下記の事項は扱いが異なります。

jsubによるジョブの投入方法

計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠のグループ名を-gオプションに渡すようにします。存在しないグループ名や関係ないグループ名を指定した場合は、そのジョブの投入はキャンセルされます。

(例) 計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠のグループ名がva0で、PAキューにバッチジョブa.cshを投入する場合、

```
jsub -q PA -g va0 a.csh
```

g03subやg09subによるジョブの投入

計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠のグループ名を-gオプションに渡すようにします。

(例) 計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠のグループ名がva0の場合、

```
g09sub -q PA -g va0 a.com
```

課金の扱い

共同利用枠と計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠の割当点数は2017年度から別々に管理されます。showlimコマンドの-cオプションでそれぞれの点数を表示できます。

同時利用CPU数制限

共同利用枠での利用CPU数と計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠での利用CPU数もそれぞれ独立に制限されます。

ディスク容量の扱い

共同利用枠と計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠の許可ディスク容量が合算されて管理されます。現在のところ、showlimコマンド等で計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用枠分のディスク使用量を表示させることはできません。

ジョブやファイルのグループオーナー

共同利用を利用していても計算物質科学スーパーコンピュータ共用事業利用のグループ名が発行されますが、共同利用の方がメイングループとなっております。

問い合わせ

RCCSからのアナウンスをご確認の上、掲示板に問い合わせ事項を記載願います。パスワード等の問い合わせや掲示板が使えない場合は、ccadm@draco.ims.ac.jpまでお問い合わせください。